

ドイツ藏吐魯番(トルファン)漢語文書から 発見された禪籍について(2)

程 正

小論(1)の目次(『駒澤大學禪研究所年報』第30號に掲載済)

- 一、ドイツ藏吐魯番(トルファン)文書—「Ch」と編目された漢語文書を中心に—
二、ドイツ藏吐魯番(トルファン)漢語文書から発見された禪宗文獻(10種15號)
燈史類

- 1、楞伽師資記(Ch365〈T III M 173.131〉の1號)
- 2、歷代法寶記(Ch1946〈T III M 173.182〉、Ch3287〈T III 173.184〉、Ch3934の3號)

語録類

- 3、絶觀論(Ch1433〈T II T〉の1號)
- 4、先德集於雙峰山塔各談玄理₊₋(Ch1232〈T III T 165〉の1號)
- 5、天竹國菩提達摩禪師論(Ch1935〈T III M 173.106〉、Ch2996〈T II D〉の2號)
- 6、南陽和尚問答雜徵義(Ch789〈T II T 1351〉の1號)

小論(1)に續く

7、二入四行論(Ch2569〈T III M 173.110〉の1號)

『二入四行論』は、禪宗初祖菩提達摩の唯一の眞説とされる「二入四行説」をはじめ、達摩を中心とした初期禪宗の人たちの言葉を直接に伝える貴重な文獻として重視されるものである。

拙著『敦煌禪宗文獻分類目録』(大東出版社、2014、以下、『分類目録』)では、『二入四行論』の敦煌漢文寫本として12種が紹介されている¹。その後、筆者は、S6980以降のスタイン・コレクションより新たに『二入四行論』の殘片1種(S11939)を発見し、しかもこれが既知のS7159と同一寫本の異なる部分であることを突き止めたのである²。

(12) ドイツ藏吐魯番(トルファン)漢語文書から發見された禪籍について(2)(程)

今回の調査では、筆者がドイツ藏吐魯番漢語文書にも『二入四行論』の殘片1種が含まれていることを突き止めた。すなわち、Ch2569のことである。その書誌學的情報については、『總目』では、

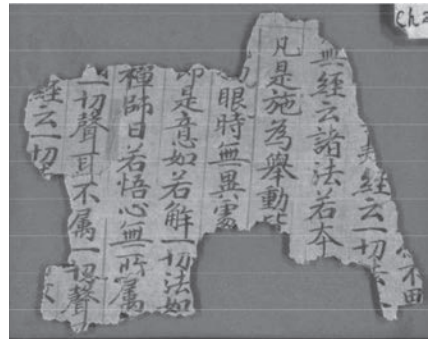
Ch2569 (T III M 173.110) 佛典殘片

10.1×12.5cm、9行。木頭溝遺址出土。(211頁)

と著録されている。これによれば、Ch2569は3回目の調査で木頭溝(ムルトウク)遺跡より出土した縦10.1cm、横12.5cmの殘片であるという。IDPの寫眞からすれば、これは罫入りの紙に約9行の内容が殘っており、地脚はすべて缺けているのに對し、4行目の天頭部分の罫線が辛うじて殘存している。これを基準に椎名宏雄校訂本³と比定すると、Ch2569は、安禪師、憐禪師、洪禪師、覺禪師ら諸師の語録の一部内容が殘存しており、もともと1行凡そ30字前後で書寫されているものと推定される。

前缺

- 1、□…□不愚□…□/
- 2、□…□經云一切法□…□/
- 3、□無經云諸法若本□…□/
- 4、凡是施爲舉動皆□…□/
- 5、□□時眼無異處□…□/
- 6、□即是意如若解一切法如□…□/
- 7、□□禪師曰若悟心無所屬□…□/
- 8、□□□一切聲耳不屬一切聲□…□/
- 9、□…□經云一切法□…□/



二入四行論 (Ch2569)

¹ すなわち、① S1880V、② S2715、③ S3375V、④ S7159、⑤ S11446、⑥ P2923、⑦ P3018、⑧ P4634V、⑨ P4795、⑩ BD1199-1 (宿99、北8374)、⑪ BD9829 (朝50)、⑫ 杏雨書屋本25-1の12種である(174-185頁)。

² 拙論「英藏敦煌文獻から發見された禪籍について—S6980以降を中心に—(2)」(『駒澤大學佛教學部研究紀要』76、2018、0150-0154頁)を参照されたい。

³ 椎名宏雄「天順本『菩提達摩四行論』」(『駒澤大學佛教學部研究紀要』54、1996、198-214頁)→筆者譯「天順本『菩提達摩四行論』」(『中國禪學』2、北京・中華書局、2003、20-33頁)(中國語譯)→光明主編『達摩禪學研究』下(中國禪學研究系列叢書)(廣州華林禪寺編、北京・中國大百科全書出版社、2003、466-518頁)。

後缺

これまで、中國國內で発見された『二入四行論』（漢文）の寫本は、すべて敦煌遺書であるが、Ch2569は殘片ではあるものの、吐魯番の地にもその流傳があったことを裏付ける確固たる物證となり、唐の時代に西域における禪宗の傳播を考察する場合缺かす事のできない貴重な資料となるのである。

偽經論類

8、佛說法王經（Ch3194〈T II T 2016〉の1號）

初期禪宗と深く關わる偽經の『佛說法王經』（以下、『法王經』）の漢文寫本については、『分類目録』において16種の敦煌遺書が紹介されている⁴。今回は、筆者がドイツ藏吐魯番漢語文書より『法王經』のテキスト1種（殘片）を見出したのである。すなわち、Ch3194のことである。その書誌學的情報については、『總目』では、

Ch3194 (T II T 2016) 佛典殘片

22.3×8.6cm、5行。吐峪溝遺址出土。(259頁)

と著録されている。これによれば、Ch3194は2回目の調査で吐峪溝（トヨク）遺跡より出土した縦22.3cm、横8.6cmの殘片であるという。IDPの寫眞からすれば、これは約5行ほどの内容を有しており、天頭をすべて失ったが、2～5行目までの地脚の罫線が残っている。これを基準に沖本克己校訂本⁵と對比した

⁴ 『分類目録』では『法王經』のテキストとして敦煌遺書から漢文16種、チベット語7種、ソグド語4種、そしてチベット語大藏經から2種、計29種を紹介している（228-233頁）。すなわち、敦煌漢文文獻の① S2692、② S7269、③ BD630（日30、北8278）、④ BD6326（鹹26、北8279）、⑤ BD6536（淡36、北8662）、⑥ BD10938（臨1067）、⑦ BD14700（新900）、⑧ BD15098（新1298）、⑨ Ⅱ x 3968A 或Ⅱ x 3989、⑩ Ⅱ x 5080、⑪ Ⅱ x 5387、⑫ Ⅱ x 5513、⑬ Ⅱ x 6080、⑭ Ⅱ x 6140、⑮ Ⅱ x 6546、⑯ Ⅱ x 9438の16種、敦煌チベット語文獻の⑰ S222、⑱ S223、⑲ S264、⑳ S265、㉑ S267、㉒ P624、㉓ P2105Vの7種、敦煌ソグド語文獻の㉔ P.sogdien23、㉕ O2326、㉖ O2922、㉗ O2437の4種、さらにチベット語文獻（西藏大藏經本）の㉘北京版、㉙デルゲ版の2種で、計29種である。

⁵ 沖本克己「『法王經』」（同氏『禪思想形成史の研究』〈花園大學國際禪研究所研究報告〉5、1998、304-330頁）→『沖本克己 佛教學論集〈第二卷・シナ編 一〉』（山喜房佛書林、2013、522-576頁）。

(14) ドイツ藏吐魯番 (トルファン) 漢語文書から發見された禪籍について (2) (程)

結果、Ch3194 は、もともと 1 行凡そ 17 字前後で書寫されている寫本であることが判明した。

前缺

- 1、□…□語已_𑖀□□ /
- 2、□…□非人皆悉一心觀一 /
- 3、□…□_𑖀多欲即從座起五 /
- 4、□…□_𑖀心无明雖復學 /
- 5、□…□_𑖀純行_𑖀惡_𑖀作_𑖀𑖀 /

後缺

9、佛說法句經 (Ch1554 〈T II 1217〉の 1 號)

同じく禪系の偽經とされる『佛說法句經』(以下、『法句經』)の漢文寫本については、『分類目録』において 22 種の敦煌遺書と出口氏舊藏の吐魯番漢語文書 1 種(以下「出口 234」)、計 23 種が紹介されている⁶。今回の調査によって、ドイツ藏吐魯番漢語文書には、『法句經』の斷片として新たに 1 種の存在が確認されたのである。すなわち、Ch1554 のことである。その書誌學的情報については、『總目』では、

Ch1554 (T II 1217) 佛典殘片。

10.9×9.7cm、6 行。(130 頁)

と著録されている。これによれば、Ch1554 は 2 回目の調査で入手した縦 10.9cm、横 9.7cm の殘片で、その出土場所が不明であるという。IDP の寫真からすれば、これは天頭、地脚のいずれもが失われている罫入りの 1 紙に約 6 行の内容を保有している殘片である。ところで、筆者は出口 234 と比較したとこ

⁶ 『分類目録』では『法句經』の寫本として 23 種を紹介している (238-249 頁)。すなわち、① S33、② S837、③ S2021、④ S3968、⑤ S4106、⑥ S4666、⑦ S7614、⑧ P2308、⑨ P3922、⑩ P3924、⑪ BD2580 (歳 80、北 8665)、⑫ BD3123 (騰 23、北 8664)、⑬ BD3417 (露 17、北 8301)、⑭ BD3421 (露 21、北 8668)、⑮ BD3424 (露 24、北 8669)、⑯ BD3645 (爲 45、北 8666)、⑰ BD3646 (爲 46、北 8667)、⑱ 北大 D103、⑲ 津圖 67 (中散 2044)、⑳ 臺灣國立中央圖書館本 119 丙 (中散 4119B)、㉑ 書道博物館本 90 (中村不折氏舊藏本、日散 1090)、㉒ 杏雨書屋本 285 (李氏鑒氏舊藏本 447、日散 285)、㉓ 出口氏舊藏吐魯番文書 234 の 23 種である。

ろ、両者が本来同一寫本に屬する斷片であることを突き止めた。

大正藏本を基に両者のテキストを復元すれば、以下の通りである⁷。

出口 234

前缺

- | | | |
|-----|---------------------|--------|
| 1、 | 外中間是爲三□…□ / | |
| 2、 | 寶明菩薩白佛言世尊□…□ / | |
| 3、 | 知三處當修身觀眼即爲□…□ / | |
| 4、 | 衆生從無始已來不知三事□…□ / | |
| 5、 | 我今教如實觀令斷諸惑□…□ / | |
| 6、 | 三事俱無是故眼不自見常處□…□ / | |
| 7、 | 處无所在善男子眼不自見□…□ / | |
| 8、 | 眼時名得爲色若眼性空□…□ / | |
| 9、 | 善男子善□…□ / | |
| 10、 | 識心是空□…□ / | Ch1554 |
| 11、 | 見无自性 眼終日見猶爲□…□ / | ① |
| 12、 | 无名善 男子以斯空眼常□…□ / | ② |
| 13、 | 而不可 滿耳聲鼻香舌□…□ / | ③ |
| | 作是念若眼與色非爲空 著□…□ / | ④ |
| | 從眼眼是有住色亦有住心 是□…□ / | ⑤ |
| | 性相違故是故當知眼色與心 虛□…□ / | ⑥ |

後缺

このように、両者のテキストを復元した結果、Ch1554 は「觀三處空得菩提品第四」の一部（T85-1433a06～14）に相當するものであり、しかも Ch1554 にある①～③行目の内容がちょうど出口 234 の 11～13 行目の内容にそのまま接續できることが明らかとなった。假に管見が大過なきものとすれば、藤枝晃編著『吐魯番出土佛典の研究—高昌殘影釋録』に記されている出口 234 の書誌學

⁷ 出口氏舊藏吐魯番文書 234 の本文翻刻に際しては、藤枝晃編著『吐魯番出土佛典の研究—高昌殘影釋録』（法藏館、2005、135-136 頁）を参照した。なお、出口 234 の行番號は算用數字を、Ch1554 は丸數字をそれぞれ用いた。

(16) ドイツ藏吐魯番 (トルファン) 漢語文書から發見された禪籍について (2) (程)

的情報がそのまま Ch1554 にも適用されることになるのである。

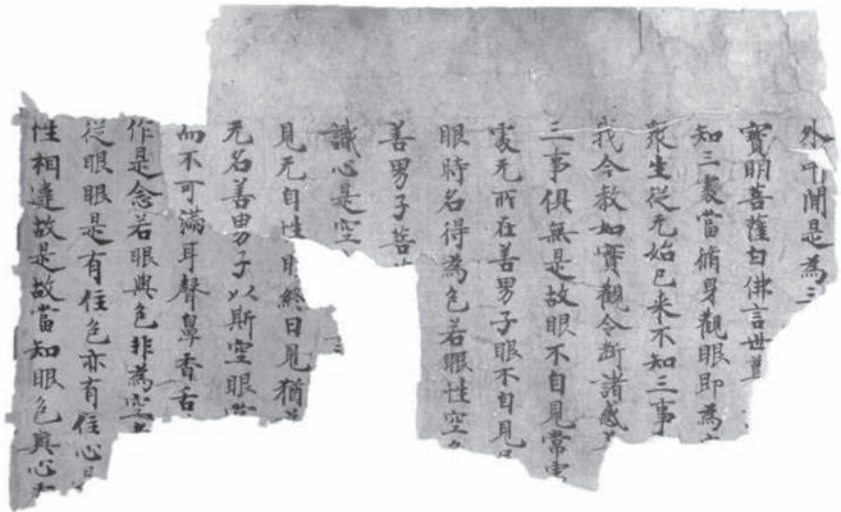
麻紙 厚〇・一三耗 紅褐色 天地一三・四×左右二〇・一糶

一紙 一三行 二四～二六字詰 罫幅一・六糶

同定=大正藏第八五卷 一四三二頁下二〇～一四三三頁上九行 二九〇一

『佛說法句經』(藤枝前掲書、135 頁)

さらに、この書の冒頭に付された出口氏本人が記された序文によると、蒐集された 130 點の吐魯番文書は、1932～33 年にベルリン滞在中、ラフマティ (Rachmati) 氏より譲り受けたもので、いずれも古高昌國遺跡から出土したものであるという。これに對して、今回新たに確認された Ch1554 については、從來出土した場所がわからないとされてきた。もし、出口 234 が本當に高昌故城の遺跡から出土したものと信ずれば、同一寫本に屬する Ch1554 も自ずと高昌故城より發見されたものということになるし、出口文書とドイツ藏吐魯番文書の關連性を探るに當たって、貴重なサンプルともなり得るであろう。



出口 234 (右) + Ch1554 (左)

偈頌類

10、楞伽經禪門悉曇章（Ch2460R・V〈無原編號〉、Ch2844R・V〈無原編號〉、Ch3811R・V〈T III 218〉の3號6種）

北宗禪において成立したとみられる偈頌の1種である『楞伽經禪門悉談章』（以下、『悉曇章』）のテキストについては、『分類目録』では7種の敦煌寫本が紹介されている⁸。一方、『總目』はドイツ藏吐魯番漢語文書のCh3811RとCh3811V残片2種を『悉曇章』のテキストとしてすでに著録している。今回は、筆者が新たに調査したところ、Ch2460RとCh2460V（無原編號）、Ch2844RとCh2844V（無原編號）の2號4種のドイツ藏吐魯番漢語文書がいずれも『悉曇章』のテキストであることを確認した。驚くことに、新たに見出されたこの2號4種はもともと同一テキストに属するものであり、しかも（Ch2460R+Ch2844V）+（Ch2844R+Ch2460V）という形でみごとに結合し復元することが可能なのである。

まず、Ch2460R、Ch2460Vの2種の書誌學的情報については、『總目』では、

Ch2460r（無原編號） 佛典殘片

9×6.2cm、4行。

Ch2460v 佛典殘片

5行。（202頁）

と著録されている。これによれば、出土した場所こそ不明なるものの、Ch2460R・Vの2種は、縦9cm、横6.2cmの殘片であるという。IDPの寫眞を見る限り、これは1紙の表に約5行と裏に約6行ほどの内容をそれぞれ有している殘片である。Ch2460Rは天頭をほとんど失い、地脚も大きく缺損しているのに對し、Ch2460Vは状況的には正反對で、地脚をほとんど失い、天頭も大きく破損している。但し、紙自體の破損が激しく、裏にある6行のうち、1～2行目の内容が判讀不能である。

次にCh2844R、Ch2844Vの2種の書誌學的情報については、『總目』では、

Ch2844r（無原編號） 佛典殘片

13.8cm×11cm、8行。

⁸ 『分類目録』では『悉曇章』のテキストとして敦煌遺書7種を紹介している（306-310頁）。すなわち、① S4583V、② P2204、③ P2212、④ P3082、⑤ P3099、⑥ BD41-1（地41、北8368）、⑦ 卍 x 492の7種である。

(18) ドイツ藏吐魯番(トルファン)漢語文書から發見された禪籍について(2)(程)

Ch2844v 佛典殘片

7行。(231頁)

と著録されている。Ch2460R・Vと同様に、出土した場所こそ不明なるものの、Ch2844R・Vの2種は、縦13.8cm、横11cmの殘片であるという。IDPの寫真を見る限り、これは1紙の表に約8行と裏に約7行ほどの内容をそれぞれ有している殘片である。Ch2844Rは天頭が大きく缺損したものの、地脚がほとんど無傷であるのに対し、Ch2844Vは状況的には正反對で、天頭がほとんど無傷であるが、地脚を大きく缺いている。Ch2460と同様に、紙自體の摩耗が激しく、判讀のできない箇所が複数存在する。

そこで、(Ch2460R+Ch2844V)+(Ch2844R+Ch2460V)という形で『悉曇章』のテキストを復元すれば、以下の通りである⁹。

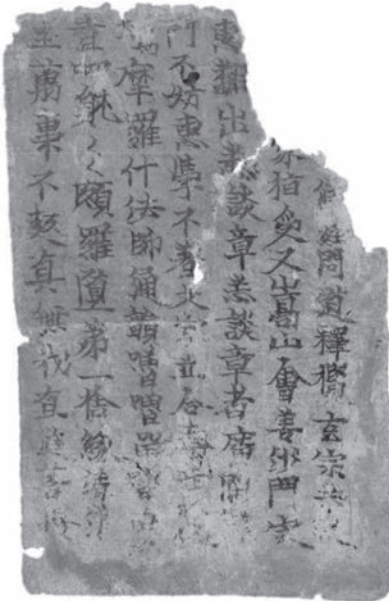
Ch2460R	Ch2844V
□…□	通□經問道釋攬玄宗□□/ ①
□□□	蒙指受又嵩山會善沙門定/ ②
1、惠翻出	悉談章悉談章者廣開禪/ ③
2、門不妨惠學不著	文字並合秦□□□/ ④
3、鳩摩羅什法師通	韻嚕嚕留嚕留□/ ⑤
4、首吽𑖀𑖀頗羅墮	第一捨緣清淨/ ⑥
5、坐萬事不起真無	我直進菩提/ ⑦

Ch2844R	Ch2460V
1、離因果心心寂滅無殃	𑖀𑖀□…□/
2、印可摩	里摩摩□里摩□…□/
3、皆頗羅墮諸佛子莫嬾墮	𑖀𑖀□…□/
4、河苦海須度過憶	食□…□木/ ①
5、頭不攢不出火	耶羅□□端坐思訶耶莫/ ②
6、臥只里成只里成	𑖀𑖀二住心常看淨亦/ ③

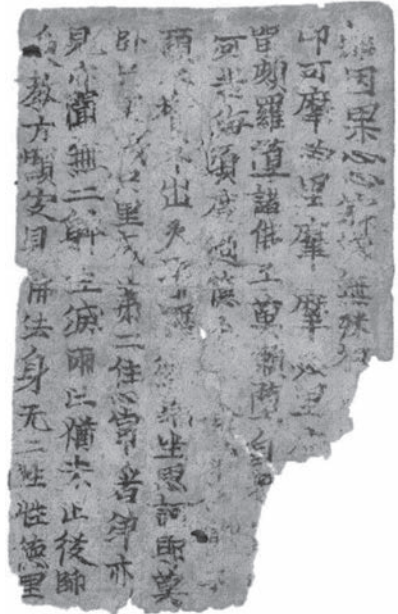
⁹ テキストの復元に当たり、『大正藏』卷85に所収本と小林圓照校訂本(「敦煌寫本<悉曇章>類の特異性—『禪門悉談章』のケース」(『花園大學國際禪學研究所論叢』5、2010、13-24頁)を參考した。

- 7、見亦聞無二鉢 生滅兩亡猶未正從師 / ④
 8、受教方顯定見 佛法身無二性性德里 / ⑤

テキストの復元によって、Ch2460R + Ch2844V の部分が本来オリジナルテキストの表であり、Ch2844R + Ch2460V の部分はその裏に相当していることが明らかとなり、オリジナルテキストが元來 1 紙 8 行、1 行約 12 ~ 15 字前後だったことも推定されよう。内容的には、『悉曇章』の序文の後半部分と、全 8 章のうち、「第一捨縁清淨坐」から「第二住心常看淨」の途中まで内容を有しているものの、紙の摩耗が激しく、文字の判讀できない箇所が複数存在している。復元した紙の状態¹⁰ や裏と表の内容がみごとに接續できることなどからすれば、オリジナルテキストは、卷子本というよりも、むしろ日巡り式の冊子本の形態を有したものと推定すべきであろう。



Ch2460R (左上) + Ch2844V (右下)



Ch2844R (左下) + Ch2460V (右上)

¹⁰ 筆者の推定では、オリジナルテキストは、横 11cm × 縦 18cm の寸法を有したものである。これは現在の A5 サイズ (横 12.8cm × 縦 18cm) に近いものである。

(20) ドイツ藏吐魯番（トルファン）漢語文書から發見された禪籍について (2) (程)

一方、Ch3811R・V (T III 218) の書誌學的情報については、『總目』では、

Ch3811r (T III 218) 《悉曇頌佛說楞伽經禪門悉曇》

9.6×17.2cm、8行。

Ch3811v 《悉曇頌佛說楞伽經禪門悉曇》

8行。(309頁)

と著録されている。これによれば、Ch3811R・Vの2種は、3回目の調査で入手した縦9.6cm、横17.2cmの残片であるという。IDPのカラー寫眞からでもわかるように、實物は原形を留めないほど損傷が著しく、表裏ともに天頭の一部を辛うじて有しているものの、紙の下半部を含める全體三分の二前後が失われている。残存している數少ない文字を手がかりにそのテキストを復元すれば、以下の通りとなろう。ただし、内容からすれば、Ch3811Vが先で、Ch3811Rがそれに續くことから、Ch3811V → Ch3811Rの順序で、テキストの復元を試みよう。

Ch3811V

前缺

- 1、□…□淨歸(?) □…□ /
- 2、思□…□ /
- 3、來□…□ /
- 4、本原淨磨□…□ /
- 5、諸子 莫看 道□…□ /
- 6、染著色塵心了乱□…□ /
- 7、得他勸諫即結難□…□ /
- 8、普路□…□ /

Ch3811R

- 1、三界實難□…□ /
- 2、即非心魔自去□…□ /
- 3、諸佛子 常覺悟□…□ /
- 4、去盧專注 毘□…□ /
- 5、第八禪門□…□ /

6、是相顯聲寂□…□ /

7、無樂可樂□…□ /

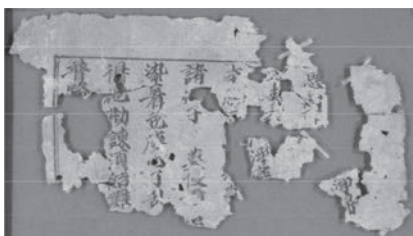
後缺

復元テキストを元にみれば、Ch3811V は『悉曇章』の8章のうち、「第六心離禪門觀」の途中から「第七圓明大慧悟」の冒頭部分までの内容を、Ch3811R は「第七圓明大慧悟」の途中から「第八禪門絕針酌」の途中までの内容をそれぞれ有しているが、破損が激しく、文字の判讀ができる内容がごく僅かである。

一方、殘片の情況からすれば、Ch3811 は巨郭の枠線が予め印刷された紙を使用した寫本である可能性が非常に高い。Ch3811 を實見できていない筆者のこの假説が大過なきものとして許されるのならば、『悉曇章』の一テキストの殘片に過ぎないCh3811 が別の面において極めて重要な意義を帯びてくる。實は、これまでその存在が確認されているすべての敦煌禪宗文獻のいずれもが傳統的な寫本なのである。枠線を印刷した寫本という珍しい形態を有する禪籍として出現したCh3811 は、西域における禪宗の興起と傳播を考える場合、極めて貴重な證左となるに違いない。



Ch3811



Ch3811V

三、吐魯番地方における禪籍の流傳—ドイツ藏吐魯番漢語文書中の禪籍殘片を手がかりにして—

さて、前文で紹介してきた16號・19種（出口234を含む）の禪籍を、文獻ごとに新番號順で一覽にしたものが下表である。

(22) ドイツ藏吐魯番（トルファン）漢語文書から発見された禪籍について (2) (程)

新番號	舊番號	禪籍名	出土場所	備考
Ch365	T III M 173.131	楞伽師資記	木頭溝	
Ch1946	T III M 173.182	歷代法寶記	木頭溝	Ch3287 と同寫本
Ch3287	T III 173.184	歷代法寶記	不明→木頭溝	Ch1946 と同寫本
Ch3934	無	歷代法寶記	不明	
Ch1433	T II T	絶觀論	吐峪溝	
Ch1232	T III T 165	先德集於雙峰山塔各談玄理 ^{十二}	吐峪溝	
Ch1935	T III M 173.106	天竹國菩提達摩禪師論	木頭溝	
Ch2996	T II D	天竹國菩提達摩禪師論	高昌故城	
Ch789	T II T 1351	南陽和尚問答雜徵義	吐峪溝	
Ch2569	T III M 173.110	二入四行論	木頭溝	
Ch3194	T II T 2016	佛說法王經	吐峪溝	
出口 234		佛說法句經	高昌故城	Ch1554 と結合可能
Ch1554	T II 1217	佛說法句經	不明→高昌故城	出口 234 と結合可能
Ch2460R・V	無	楞伽經禪門悉談章	不明	Ch2844 と結合可能
Ch2844R・V	無	楞伽經禪門悉談章	不明	Ch2460 と結合可能
Ch3811R・V	T III 218	楞伽經禪門悉談章	不明	

今度は、禪籍の出土場所を基準に禪籍の件数をまとめて一覧したものが下表である。

出土場所	禪籍の件數（寫本番號順）	備考
木頭溝	Ch365、Ch1935、Ch1946、Ch3287、Ch2569 の 5 號・5 種	Ch1946 と Ch3287 は同一寫本
吐峪溝	Ch789、Ch1232、Ch1433、Ch3194 の 4 號・4 種	
高昌故城	Ch1554、Ch2996、出口 234 の 3 號・3 種	Ch1554 と 出口 234 は結合可能
不明	Ch2460R・V、Ch2844R・V、Ch3811R・V、Ch3934 の 4 號・7 種	Ch2844 と Ch2460 は結合可能

ここにリストアップした漢文禪籍の残片の出土場所を確認すると、不明なも

の(4號・7種)を除くすべての禪籍はいずれも木頭溝(5號・5種)、吐峪溝(4號・4種)、高昌故城(3號・3種)の3箇所より發見されたことがわかる。

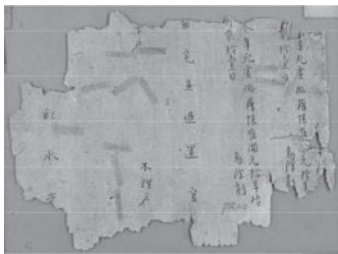
これらの3箇所のうち、當時の情況が比較的知られているのは吐峪溝のみである。すなわち、乾元以降(上元元年760)～791(吐蕃に占領される)までの期間における西州の記録と推定された¹¹『西州圖經』(P2009)と呼ばれる資料の山窟二院條に、下記の記述がある。

丁谷窟：有寺一所、並有禪院一所

右在柳中縣界、至北山丁谷中、西去州廿里。…見有名額、僧徒居焉。(後略)

これによれば、少なくとも760～791のあたりで、丁谷窟(吐峪溝)には、寺院と禪院が1箇所ずつあったという。特に禪院の存在が言及されたことは大いに注目すべきであろう。

一方、ドイツ藏吐魯番漢語文書から發見された禪籍の中で、おおよその書寫年代が推定されたのは『絶觀論』(Ch1433、吐峪溝より出土)の1種のみである。すなわち、土肥義和氏がCh1433Vに書寫された籍帳(殘片)の内容を翻刻した上、これを開元十三年(725)に造籍した『西州開元十三年籍』(以下、『西州籍』)と推定された¹²。ここでは、便宜上、『西州籍』とされるCh1433Vの内容を紹介しておこう。



『西州籍』(Ch1433V)

前缺

- 1、 □…□年死、虚掛籍帳。准開元拾年□ /
- 2、 □…□貳拾壹日 勅除削 /
- 3、 □…□叁年死、虚掛籍帳。准開元拾年拾 /
- 4、 □…□月貳拾壹日 勅除削 /
- 5、 □…□田宅並退還官 /

¹¹ 羅振玉『敦煌石室遺書』(1909、3丁表)。

¹² 土肥義和「唐令よりみたる現存唐代戸籍の基礎的研究(上)」(『東洋學報』52-1、1969、124-125頁)。この土肥説は池田温『中國古代籍帳研究』(東京大學東洋文化研究所、1979、250頁)に擁護された。

(24) ドイツ藏吐魯番（トルファン）漢語文書から發見された禪籍について (2) (程)

6、□…□下戸 不課戸 /

7、 □…□畝 永 業 /

後缺

西脇常記氏は、土肥説を踏まえてこの籍帳の反古紙を利用した『絶観論』の書寫年代を725年から「唐の勢力が及んだ八世紀末の時期、及びその影響の残った九世紀」¹³までの間と想定された。これに對して、榮新江氏は當時一般に籍帳の保存年限が9年とされていた¹⁴ことから、『絶観論』の書寫年代の下限を八世紀末とさらに狭められたのである¹⁵。假に當時9年と定められた籍帳の保存年限に關する規定が嚴密に守られていたとすれば、『絶観論』の書寫年代の上限を734年とすることが可能であろう。實は、この數字は書寫年代のみならず、ひいては牛頭宗のテキストと位置づけられた『絶観論』そのものの成立年代を判斷する時に重要な目安ともなり得よう。『西州籍』の反古紙に書寫された『絶観論』は、吐魯番現地（西州）の籍帳が二次利用されたことからすれば、他の地域から持ち込まれた寫本と考えるにくく、むしろその發見地である吐峪溝を中心とする吐魯番現地で書寫された可能性が極めて高いといえよう。角度を変えれば、これは『西州籍』の反古紙が二次利用された頃、牛頭宗の禪籍である『絶観論』がすでに吐魯番の地に傳來したことをも意味するものである。さらに『西州圖經』（P2009）の記述と合わせて考えるならば、おそらく吐峪溝に從來の禪觀と異なる主張が盛り込まれる禪宗文獻に關心を寄せた禪僧が出現し、現地で禪宗文獻を書寫したと推測されるのである。

¹³ 注9 西脇常記前掲書、138頁。

¹⁴ この根據については、榮氏がこの論文において明らかにしていないが、恐らく「戸籍、常留三比、在州縣五比送省。」（仁井田陞著『唐令拾遺』、東京大學出版會、1983復刻版第2刷、244頁）という唐令に基づくものと考えられる。ただ、この唐令については、池田温氏がその讀み方に異議を呈されており（注38 池田温前掲書、76頁下）、なお検討する餘地があるであろう。

¹⁵ 榮新江「唐代禪宗の西域流傳」（『田中良昭博士古稀記念論集 禪學研究の諸相』（大東出版社、2003、060-061頁）→榮新江『絲綢之路與東西文化交流』（北京・北京大學出版社、2015）に再録されている。

以上、筆者が在外研究（2016年度）中、ドイツ藏吐魯番漢語文書より確認できた禪籍を紹介してきた。また、その出土場所については、不明なもの（4號・7種）を除くすべての禪籍はいずれも木頭溝（5號・5種）、吐峪溝（4號・4種）、高昌故城（3號・3種）の3箇所より發見されたことも判明した。これらの禪籍を一覧にすれば、以下の通りである。なお、今回の調査で新たに確認できた12號・14種（太字）の禪籍についてはその文書番號をゴシック體にした。

- 1、楞伽師資記（Ch365の1號）
- 2、歷代法寶記（Ch1946、Ch3287、Ch3934の3號）
- 3、絶觀論（Ch1433の1號）
- 4、先德集於雙峰山塔各談玄理十二（Ch1232の1號）
- 5、天竹國菩提達摩禪師論（Ch1935、Ch2996の2號）
- 6、南陽和尚問答雜微義（Ch789の1號）
- 7、二入四行論（Ch2569の1號）
- 8、佛說法王經（Ch3194の1號）
- 9、佛說法句經（Ch1554の1號）
- 10、楞伽經禪門悉談章（Ch2460R・V、Ch2844R・V、Ch3811R・Vの3號）

附記：

本稿は、「海外の研究者との連携による中國・日本における禪思想の形成と受容に関する研究」（平成30年度、國內共同研究〈代表者：東洋大學・伊吹敦〉）の研究成果の一部でもある。

最後に、在外研究（2016年度）に際し、受け入れ教員になっていただいた上海師範大學教授の方廣鋁先生に、また同期間中、頗る調査の便宜を圖ってください、啓發的示唆を數多く賜った同じく上海師範大學副教授の定源（王招國）先生に、それぞれ深謝を申し上げたい。

キーワード：ドイツ藏吐魯番（トルファン）漢語文書 禪宗文獻